みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・5228
※責任者＝文教部長　川畑信子

山をなすカンパ物

就労後も日ましに増加

正月を迎えたいま全国の仲間たちからの暖かいカンパ物資は、年を越してもぞくぞくとおくられてきている。三池の火はたたかいのなかで全国にひろがったが、たたかいが終ったとたんに消えてしまったのだろうか。いや、ますます各地に燃えさかっている。労仂者階級の強くたくましい連帯をひしひしと感じるとともに、あらためてこんごの前進を誓わずにはおられない。

一カ月で五百個

三池のたたかいは事態収拾をおくない十二月一日から就労をはじめているが、全国の三池を守る会をはじめとして、働らく仲間たちの活動で三池の火は消えるどころか力強く燃えつづけ、ひろがっている。

日教組の婦人部では三池の仲間に少しでも役に立つならと、夏ごろから衣料カンパを教組の組合員に呼びかけ、集められたカンパ物資は各地区の教組婦人部から絶える間もなくつぎつぎと三池へ送られてきている。とくに年末には、正月をひかえて、三池の組合員が少しでも暖かい正月を迎えられるようにと、カンパ物資も連日組合に到来して、山のようにつまれた。十二月の一カ月間に送られてきたこれらのカンパの小荷物は四七七個におよんでいる。

総評青婦部も推進

もちろん、闘争終結後につぎつぎと送られてきているカンパ物資は教組婦人部からだけではない。各単組、三池を守る会、診療所や、なかには佐世保市から来た匿名の人のカンパも寄せられている。

一方、総評の青年婦人対策部でも〝三池の仲間に激励をおくろう〟と呼びかけ活発な活動を推進している。

〝働らく青年婦人のみなさん、三池のたたかいの火を全国の仲間のなかに赤々と燃やしつづけましょう。そして年末をひかえて激励の手紙、寄せ書などを三池の仲間におくりましょう。また、永い間一カ月生活で苦しい生活をつづけてきているので、カンツメその他の食糧は大きな無言の激励になるのです。みんなが進んで慰問袋をおくりましょう。

三池の仲間たちに新らしい年を希望の年として迎えられるようさらに力強くたたかって行くように励ましをおくろうではありませんか〟

以上のような呼びかけでカンパをすすめてきた。

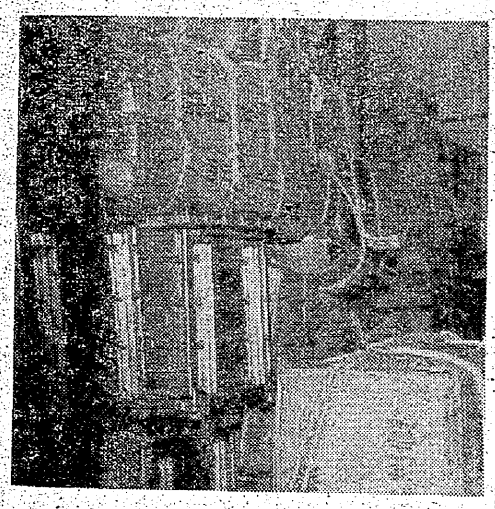
前進を誓い合おう

こうして教組をはじめとして、全国の仲間たちからは、正月を迎えたいまでも、仲間たちの寄せる暖かいカンパ物資がつぎつぎとおくられてきている。

これらのカンパは直ちに本部から各支部に配分されて分会にとどけられているが、三池のたたかいを通じて触れ合った働らく仲間の同志愛は、日を経るごとにいっそう固く深められている。

われわれは三池のこんごのたたかいを見つめて励ますこれらの仲間の期待を無にしないためにも、そしてつぎの新たな前進をかちとるためにも、お互いがガッチリと団結を固めて頑張ろう。

さあ、ことしも元気に頑張るぞ!!



本部に積重ねたカンパ物資

みんなで書こう

港務支部で運動すすめる

主婦会港務支部では、たたかいの中で見たこと、経験したこと、感じていることを、みんながエンピツをとって書き残そうとつづり方運動をはじめている。

就労後はやくも一カ月がすぎたがいまの実情は、だれの胸にも苛がゆいわりきれない怒りや、重苦しさがあります。この私たちの複雑な気持を一人ひとりの胸の中にしまっておかないでみんなで話合い、お互いの気持をよく知っていたわりはげまし、あるいは考え方をふかめ、ますます強固な団結と新らしい闘争の態勢をつくりあげることが大切です。

また、私たちの気持を、たたかった経験を全国の仲間たちによく知ってもらうことも重要なことと思います。みんなでエンピツをとって、たたかいの中で一番つよく感じていることを、いま思っていることを書きましょう。下手でも幼稚でも三池の主婦のありのままの気持をつづって、みいけを見守る全国の仲間に送りましょう。

と執行部では会員に呼びかけている。

締切りを一月十日としているが、書く上での注意をつぎのようにあげている。

(1) 自分でなければ書けないことをさがそう。一丸となってたたかってきた私たちですが、顔や性格がちがうように、感じ方、受けとめ方や生活はさまざまです。拒否者の方は拒否者の人なりに、職場に残った人は残った人なりに、一人ひとりがちがうのです。自分でなければ気づかないこと、人前ではいいにくいこと、それを書いて下さい。

(2) 型にはまった立派なものよりも飾らない真実の声を書きましょう。

(3) 一番印象に残っている一つの場面、心にひっかかっている一つのことをくわしく書きましょう。

(4) あらたまって、立派な文をなどと思うと、つい書くのがおっくうでいやになります。ふだん話すようにさっぱりんに方言まるだしで結構です。

(5) 日記のようにある一日か、五六日間の出来事を書いてもいいし、親戚や友だち、子供や夫にあてて手紙を書く形で書いてもいいのです。

(6) みんなでうたえるうたや詩にするとか、夫と妻、親と子との対話の形など、いろいろ書きやすい方法を工夫して下さい。

以上は港務支部でおこなっているのですが、みんなもこのようにしてぜひ、何かを書きとめるようつとめましょう。

郵便遅配は定員不足が原因

全逓闘争に責任をすりかえ

時の問題

臨時職員の本採用、定員増などを要求してたたかっていた全逓労組は、十二月十二日に当局と話合いがすみ闘争体制を解除したが、郵便遅配はいぜんとして解消しません。

これについて新聞やラジオは全逓の闘争だけが原因であるように伝え、当局も特別監察班を作ってサボやストを取りしまるといっています。が、果して郵便の遅配は全逓労働者の責任でしょうか。このような統計です。

昭和九年	四八億通	人員比率 一〇〇%、昭和三〇年 四九億通 七八・九%、昭和三三年 五六億通 八〇・九%、昭和三四年 六六億通 八三・八%
昭和三五年	六九億通	八六・七%

遅れるのは当然

○…このように郵便物は昭和九年からみて約二億通も激増しているのに、要員数は逆に一万三千人も減少しているのです。とくに最近はダイレクト・メール（宣伝用印刷物）が圧倒的に多くなり、これが年賀状や年末の贈答小包と重なると、どうにもならなくなってしまいます。このことは郵政当局も認め、三十四年度は二万六千人の非常勤者（日給臨時職員）を入れ、要員不足をカバーしていますが、しかしこれでも昭和九年にくらべて郵便物数は一四五・五%と増加しているのに、人員は一一四%にしかふえていないのです。そのうえ、機械化のむずかしい郵便事業のことです。郵便物が遅れるのは当たり前だということがお判りでしょう。

二五〇円の非常勤者

○…しかもこれら非常勤者の日給はわずか二百五十円（全国平均）という低賃金です。二百四十円といわれる失対労働者の日給が三百五円から四百五円というのにくらべてみて下さい。そして全逓非常勤者の場合、当局は月二十一日しか働かせないという制限をつけているのです。理由は月二十二日以上雇用すると期末手当を支給しなければならないということからの「経費節減」だそうです。これで果して労働意欲が出るでしょうか。そのうえ勤務は郵便物の激増とともに配達区域がひろがり、都市では高層ビルがふえたため、一日に一万三千四百階段（富士登山に匹敵する）も昇り降りしなければならないということです。このため療養中の者と要注意者は四万人にも達しているのです。

原因はここにある

○…そこで全逓労組は「郵便物の遅配の原因は、郵便物の増加に見合う職員の不足にある」のだから(1)六万人の人間を増員する(2)そのため現在の二万六千名の非常勤者を全員本採用とし、非常勤という臨時制度を廃止する(3)年末繁忙手当を制度化する、ことなどを要求して、さる十一月二十八日から一せいに時間外労働の拒否をはじめたのです。とくにその戦術を「超勤拒否」に決めたのは、郵便局が一ばん忙しくなるのが一日のうちで夕方の五時ごろからで、これ以上当局のいいなりに仕事をしていては「もう身体がもたない」という切実な要求からだったのです。郵便配達の原因がどこにあるのか責任がどこにあるのか、これでお判りでしょう。

地下室ぐらし

欧州労働者の生活寸描

ヨーロッパの労働者の生活は一般的に日本の労働者の生活水準よりも高いといわれているが、実際は一部の労働者は日本の労働者にも劣らないみじめな生活をつづけている。以下最近の工人日報紙（中国）が伝える労働者の生活寸描である。

▼イギリス　労働者の生活事情はきわめて悪い。少なからぬ労働者の住宅は監獄とかわりばえはしない。ロンドンの東地区では地下室暮しをしている者もあり地下室へ通ずる石段はひどく痛んでおり、階段の上がり下がりには体にひもをつけて安全をはからねばならないという。

九月二日からはじまった炭労大会―私たちはこの大会にすべてをかけていた。八月十日、あまりにも一方的な中労委のあっせん案に対し、拒否か受諾かがはっきり決定する大会である。私は拒否の線にかたむくことを願いながら悲痛な気持でこの大会を見守った。しかし大会の決定は無残にも私たちの期待をうらぎり、条件は受諾という形で事態収拾ときまった。この連絡をうけた三池の第一組合員の気持はどんなだったろう。

一、二〇〇名の首切り白紙撤回を叫んで闘ってきた私たち。闘う力はまだ残っている。拒否して闘う覚悟はできていた。私たちはこのときほど、炭労に対し憤りを感じたことはなかった。しかし、一番強いと誇った三池も、第二組合員が五、〇〇〇人が行なわれた。すべての条件が私たちの満足するものではなかった。不満で不満でたまらないのが私たちの義務である。ここでくじけてはいけない。苦をくいしばっても立ち上がらなくては、職場をなくした一、二〇〇名の人を守り、すこしでもよい条件をかちとり生活の主導権をにぎり、これ以上の脱落者を出さず、以前の三池労組にかえさなくては、と心に誓い、今後行なわれる中央の交渉を見守った。

そしてそれから二カ月、十一月一日午後四時平和宣言の調印をきこえている現状、炭労ばかりをうらむわけにはいかない。あくまでも組織の決定にしたがうまでは、私たちは正しいことをやってきたという自信と決意を持って進んで行きたい。

主人たちはこれから以前とちがった空気の職場に毎日勤務する。いやなこと、腹立たしいこともあるだろう。このとき、私たち主婦は主人のよき相談相手となり、力を合わせ明るい職場を築きあげるようつとむべきである。第二組合に対してもただ憎しみばかりに走らず、労働者としての本当の生き方を自覚させ、一日も早く一人でも多くの人が私たちの組合に復帰するようつとむべきである。

給料も大幅に賃下げられた。今後の生活も大変苦しいだろう。いままでの闘争中以上の苦難が目前にひかえている。しかし、このときこそ三池主婦会の本当の底力を発揮するときである。

今まで歩んだそして築き上げた主婦会の本当の在り方を再び身にかみしめ、何度も何度も叫んできた生活革命運動と仲よし運動の真の在り方を理解し、再認識すべきである。

今後組織の切り崩しも前にもまして強く行なわれることはつづきしている。主婦会にも必ずこの手がのびてくることだろう。このとき主婦会が心からお互いを信じ合っていつてこそ、組織の強化はますます固くなるものである。そして以前の三池労組、三池主婦会に立ち直るよう努力すべきである。

× × ×

お互いを信じ合つて これからが本当の斗い

本所支部吉原分会　井元睦子